

# 読賣新聞

## 高野で来月 乳がんケア集会

# ダウン症書家 激励揮毫



金沢さんの色紙を手に、「金沢さんの作品のパワーを感じ取ってほしい」と話す梅村さん（橋本市の紀和病院で）

高野町の高野山大学などで10月27、28両日に開かれる、乳がん患者の心のケアを目的にした集会「生命の祈り〜乳がんの集い in 高野山〜」に、NHK大河ドラマ「平清盛」の題字を手掛けたダウン症の書家、金沢翔子さん(27)が出席し、患者を励ますために大作の揮毫に挑む。紀和病院（橋本市）の医師らが、金沢さんの書を心の支えに闘病生活を送りながら亡くなった患者の「会いたい」という願いを受け継ぎ、招待した。

（山田博之）

集いは、紀和病院を運営する医療法人南労会と高野山真言宗・総本山金剛峯寺でつくる実行委員会が主催。同病院の乳がん専門の診療科「紀和プレスト（乳腺）センター」のセンター長、梅村定司医師(46)が実行委員長を務める。

金沢さんは5歳の頃から、母で書家の泰子さん(68)に書を習い、16歳の時に日本学生書道文化連盟展で金賞を受賞。力強い作風で注目されるようになった。

テレビ番組で金沢さん親子を知った梅村さんは、「時には優しく、時には厳しく大きな愛で娘を立派に育て

## 闘病の支えに 亡き患者の願い込め

上げた母の姿に感動した」と言う。金沢さんに依頼して「生命」という文字を色紙に書いてもらい、昨年5月に行った乳がん卒業式で、「自分の生命を大切に、力強く生きてほしい」と、手術後10年の節目を迎えた患者らにコピーを渡した。

梅村さんが色紙を診療室に飾ったところ、闘病中だった奈良県五條市の東のりこさんから「この書には魂がこもっている。手元に置きたい」と頼まれた。東さんは自宅の寝室に飾り、「治療が辛い時に見ると、元気が出て、頑張ろうと思える」と語っていた。

金沢さん親子は昨年9月、同病院が開いた講演会の講師を務めた。東さんは「翔子ちゃんに会って握手したい」と夢見ていたが、約1か月前に59歳で亡くなった。梅村さんや患者、スタッフらは、東さんの夢を受け継ぎ、追悼したいという気持ちも込めて、今回の集いに親子を招いたという。

金沢さんは10月28日、高野町の高野山大学松下講堂黎明館で、縦1・9メートル、横1メートルの和紙4枚に1文字ずつ、強いものは壊れないという意味の「金剛不壊」を揮毫する。「強い意志を持って病気に立ち向かってほしい」と泰子さんが選んだ文字だ。

梅村さんは「長い闘病生活を送るには、心のよりどころが必要。金沢さんの作品のパワーを感じ取り、明日への活力を高めてほしい」と期待をかけている。

集いは、10月27日に慈恵院（九度山町）で手作りの絵馬を奉納後、参詣道でウォーキングを楽しみ、高野山の宿坊で1泊。同28日は動行や写経を体験し、亡くなった乳がん患者の供養式典を催した後、高野山大学で乳がん患者会「あけぼの会」のワット隆子会長らが講演する。参加料は1泊3食付きで1万3000円。申し込みは9月28日までに紀和病院（0736・33・5000）へ。